

ボディーマークに釘づけ?!

小児領域におけるUSは、非侵襲的であるとともに、内臓脂肪が少なく高周波プローブで鮮明な画像が得られ、欠くことのできない画像検査である。

しかし、幼児期までの児は体動や啼泣によりしばしば検査に難渋する。

そのような際、検査室環境への配慮は重要であり、いかに児本人の恐怖心を和らげるか、また気をそらせるかがポイントになる。

一般的には、検査室の照明、保護者の同伴、玩具の使用や動画供覧などであるが、当院ではUS装置のボディーマーク作成機能を利用したキャラクターを表示させ、児に検査へ興味を惹かせることを行なっている。繰り返しUSで経過観察する場合もあり、その場かぎりの“気の紛らわせ”ではなく、検査に興味を示してもらうことで同席する保護者も安心でき、我々も検査に臨みやすい。

作成したボディーマークは上手である必要はない。不完全な方が盛り上がる…かも。

